

シンポジウム 2

育児の環境整備

—保育園と幼稚園の一元化：認定こども園を考える—

六合こども園とは

—幼保一元化を通して 幼児教育センター的役割を持った園を目指す—

山 本 茂 (六合村立六合こども園)

I. 六合村とは？

六合村は、群馬県の北西部に位置し、長野県、新潟県に接する上信越高原国立公園のふところに抱かれた自然豊かな村である。(山林原野92%，国有林90%) 県の上毛かるたに「鶴舞う形の群馬県」と読まれる鶴の尻尾に位置し、湖や温泉が豊富で、若山牧水、十返舎一九をはじめ、長塚 節、大槻文彦等たくさんの文人も訪れ、「昔々あったと…」と語られる民話の宝庫とも言われている。

また、昔は、めんばや木鉢、しゃもじ、お玉等自然の木材を生かした木地師の里とも言われている。

六合と書いて「くに」と読むのは、明治33年に草津村から分村し、当時、六つの大字(入山、小雨、生須、太子、日影、赤岩)があったのを一つに合わせ六合村とし、古事記に「天地四方をもって六合(くに)となす」とあることから名付けたと言われている。最近、大字の一つ「赤岩」地区が養蚕農家が残された「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたことを受け、富岡製糸と共に世界遺産の登録を目指して進行している。

II. 六合こども園の誕生まで

六合村には、南北に2幼稚園があった。

しかし、過疎化、少子化で園児数が減少したことと合わせ、共働きの家庭が多くなり保育のニーズも多様化してきた。さらに、2園統合の話も出の中で、幼稚園か、保育園かの議論がかわされてきた。

しかし、幼稚園もほしい、保育園もほしいと言う意見が拮抗し、折り合いがつかず行き詰まり状態となった。

折しも、タイミング良く、平成14年12月に国の構造改革特別区域法が成立し幼保一体化された施設が容認されることとなり、行政的的確な対応により全国で第1号として認可されることとなった。

- * 幼児教育を考える集い 平成13年11月
- * 幼児教育検討委員会 平成14年 7 月
- * 議会説明 平成15年 1 月
- 住民説明 平成15年 2, 3 月
- * 構造改革特別区域計画認定「807」
|幼稚園で両園児が合同活動できる。| 平成15年4月
- * 構造改革特別区域計画認定「914」
|保育園で両園児が合同活動できる。| 平成15年10月
- * 構造改革特別区域計画認定「916」
|保育の実施事務を教育委員会に委任| 平成15年10月
- * 園舎建設開始 平成15年 7 月
- * 六合こども園開園 平成16年 4 月
- * くにつこニコニコ給食特区
|給食センターでの調理が認められる| 平成18年 4 月

III. 六合こども園の目指す子ども像

- * 保育目標
- 基本目標 健やかに 心豊かに たくましく
- 具体目標 なかよく元気に遊べる子ども
思いやりのある子ども

進んで取り組む子ども
豊かに表現できる子ども

*** 保育で目指す重点目標**

- ◎個々の子どもの個性を活かし発達段階に応じた保育に努める。
- ◎豊かな自然環境を活かすと共に、異年齢間の交流、ふれあいをはじめ、小中学校、高齢者等さまざまな人との交流ふれあいを進め、心豊かな子どもの育成を目指す。
- ◎家庭、地域、学校等との連携を密にし、共通理解の元に一貫性のある保育に努める。

IV. 六合こども園の特色

*** 保育方針**

- ◎幼稚園と保育園を組み合わせ、両園のメリットを活かし、融合させた園である。
- ◎児童福祉法に基づく保育園（0歳から5歳）、と学校教育法に基づく幼稚園（3歳から5歳）の認可を受けた幼保一体の園である。
- ◎園の運営と保育は六合こども園の園児として幼保の区別なく年齢別のクラスで保育および教育を行う。
- ◎給食は長期休業日を除きセンターでの調理でまかない、園、小中学校同じメニューの給食である。
- ◎英語講師による英語で遊ぶ時間を設け英語に親しむ子どもを目指す。

*** 登園・降園**

- ◎4、5歳児は希望により、スクールバスの通園が認められる。
- ◎1歳から3歳児は、保護者の送り迎えとする。

*** 保育料**

- ◎0歳から2歳児は、保護者の課税状況による。
- ◎3歳から5歳児、保育園児 9,350円
幼稚園児 6,350円

V. 具体的な運営

① 幼保一体化の目的

人間形成の基礎を培ううえで極めて重要な乳幼児期の保育、教育を就学前教育として一元的

にとらえ、0歳から就学前までの心身の発達に合わせた一貫した方針に基づき、乳幼児の健やかな成長を育むための保育を目的とする。

② 幼保一体化の基本方針

- ◎保育所保育方針と幼稚園教育要領に基づいた「六合っ子乳幼児教育カリキュラム」を定め、0歳から就学前までの乳幼児の心身の発達に合わせ、「六合こども園の園児」として幼稚園、保育園の区別なく同じクラスで同一内容の保育を行う。
- ◎家庭、地域、園はもとより、小学校、中学校との連携を密にした保育を行う。
- ◎地域の豊かな自然環境と人材等を活かし、豊かな社会性、創造性を目指した保育を行う。

③ 子ども園の1日（表1）

④ 開園3年間のあゆみ

長い間の課題になっていた幼保の一元化が、国の方針として初めて認められたということで全国にサンプルが無い中でのスタートとなった。幼保一体を長い間の懸案として試行錯誤してきた自治体や園の中に、次のような施設は各県各地にサンプルとしてあった。

△同一敷地内の幼稚園、保育園が連携した保育を行う。

△午前は同じクラスで保育を行い、午後は保育園の施設、保育士のもとで保育を受ける。

△管理、運営は教育委員会、保健福祉課等に分かれて運営される。

△カリキュラムは別々である。

しかし、六合こども園が目指す施設、職員体制、カリキュラム、運営等すべてが一元化された施設は、皆無であったと思われる。

このような中での運営で、六合こども園が目指す方向に間違いはなかったと考えられる。

その理由としては、この4年間に全国津々浦々からの視察を受けて（個人、団体を含め、691人）こども園としての方針を示し、納得、同調していただいたこと。

さらに、以下のようなメリットがあったことである。

- ◎六合村の就学前の子どもは、入園、未入園児にかかわらず六合こども園ですべて

表1 子ども園の1日

*印は1, 2歳児対応

時刻	職員の活動	園児の活動	活動内容、ねらい、趣旨等
7:45	早番出勤 平常勤務者出勤までの登園児の保育	保護者の都合により三々五々登園	◎1日がスムーズにスタートするように園門で「おはよう」と暖かく迎える *1, 2歳児は保護者により健康観察・服装等確認
8:15	平常勤務出勤 朝のミーティング ミーティング後保育に		◎登園園児で思い思いのあそび 朝のミーティング ◎園、クラスの活動を確認し、統一した保育を
9:15	遅番出勤 こども園の保育活動開始	こども園保育活動開始 月、木3, 4, 5歳児英語で遊ぼう(30分)	◎園、クラスにより元気に楽しく遊ぶ
10:00~ 10:30	*給食担当おやつ準備		*休養・健康観察
11:30~	給食担当配膳準備・配膳指導		◎自主自立、責任感の育成を目指すための活動
12:00~ 12:45	給食	歳児毎の実態により給食準備の手伝い 給食	◎個々の園児の身体状況により適切な給食指導を行う
12:45~ 15:30	*午睡準備	*歯磨き・午睡	*十分な休養により健康で充実した保育活動を目指す
12:50~ 13:25	降園活動	方面、お迎え別に並んでさようなら 園門で保護者とさようなら	◎今日1日を反省し、明日に向けてがんばることを確認してさようならをする ◎帰る子、午睡をする子のスムーズな流れに配慮する
13:25~ 15:30	午睡担当お休み活動	午睡	◎十分な休息で健康と保育活動の充実をはかる
15:30~ 16:00	給食担当おやつ準備・おやつ指導 片づけ	おやつ	◎楽しいおやつで最後までがんばる ◎子育て支援員の手作りおやつもあるよ
16:00~ 17:30	保育・随時降園対応(遅番中心)	午後の保育活動 英語で遊ぼう(月・木) 保護者と共に三々五々降園	◎午後の仲間と楽しく遊ぼう ◎月・木 英語の先生と楽しく遊ぶ(3,4,5歳児) ◎今日も1日ががんばったね。明日もまた遊ぼうね。さようなら!! ◎降園予定に合わせてスムーズに降園できるように、明日に思いがつながらるように配慮する
18:00~	遅番園管理確認後退園		

面倒を見る。

- ◎園全体の施設、幼保両免を持った職員により全園児同一にエネルギーを向けることにより、全園児の実態を全職員が把握し、対応できること。
- ◎園児、保護者、地域等も幼保にかかわらず、「こども園」として幼児教育のことについて相談できること。
- ◎保護者にとっては、家庭の事情により同一園の中で幼保を選べること。

◎園としては、郡、県、国等縦のつながりの中で幼保の情報を同時に受け、活かすことによりより良い保育を目指すことができる。

- このことは、反面デメリットともなった。
△同一職員が両園の職員を兼ねるため、仕事が煩雑の上に多忙になり、研修等の時間がとれなくなる。
- △両省、両園の上部機関との関わりを持つために、事務をはじめ、さまざまなこと

が二重の手間となる。

このようなデメリットも運営主体（市町村）の考え方、運営方法により改革できる面は多々あると思う。

しかし、構造改革特区をはじめ、総合施設、認定こども園等いずれも効率、経済効果等を優先した考えなので、大変厳しいことである。

そこで、今後の幼児教育については、国自体が思い切った発想の転換をして、乳幼児は国の宝として就学前の子どもは、国が無償ですべて面倒を見るくらいの改革が必要だと考える。

VI. 成果と今後の課題

① 成果について

幼保一元化を受け、不安と期待の中、手探りで全国に先駆けて開園したこども園でしたが、今開園当時を振り返ってみて、あまり構えず、原点に立ってスタートしたことが良かったと思う。

まず、朝「おはよう!!」と登園した子どもが、1日元気に楽しく過ごして「またあしたあさうばうね!! さようなら!!」と元気に帰っていくことだけを願ってのスタートだった。

園側はもちろん、行政・保護者・地域ともどもすべて初めての経験に、原点に返ってスタートしたことが良かったと思う。その中で、これこそ子どもの成長しようとするエネルギーの素晴らしさだと感じさせる感動の毎日だった。

1歳児から5歳児までの子どものふれあいから、自然に醸し出される模倣とやさしさから受

ける成長は、大人社会にないほのぼのとしたものだった。園門で保護者と別れられない子に「だいじょうぶ? いっしょに行こう」と手をさしのべる年長児。けんかをしている子がいると「○○ちゃんがわるいよ」と忠告し、1,2歳児の給食にそっと養ってやる年長児。手を引いて遊びに誘ったり、泣きべそをかく子を励ましたりする子等、このような事例は枚挙にいとまがない。保護者の反応も開園当初は先が見えない中でのスタートのため、不安からさまざまな問題があったが、2年、3年と過ぎた現在は、皆無に近い状態だと思う。ただ幼保一元化からくる諸事情から譲り合うべきことは多少あることはゆがめない事実である。

② 課題について

課題については、前項でも触れたが限られたマンパワーの中で幼保両園機能を果たすこと、上部機関との関係を保つことからくるさまざまな事柄が煩雑、重荷になることである。

そのために、関係機関、行政にあるべき姿、方向を指し示しをお願いするが、すべてのセクションとお金の掛かること故先ず不可能に近いのが現状である。

このことも、マンパワーの充実、上部機関の一元化等で解決ができるわけであるが、現時点では先ず、不可能なため、こども園では保育園に重点をおいた園とし（将来的には保育園を見据えたことも考慮して）園の可能な限りの努力で内容の充実した園を目指していくことしか選択肢がないのが実状である。